

<確定稿>

第2回千代田区エリアマネジメント団体ガイドライン検討会議事要旨

日時	令和6年10月24日(木) 16時00分～18時00分
会場	区役所8階 第3・第4会議室
出席	委員17名(欠席1名)
議題	千代田区エリアマネジメント団体ガイドラインについて

議事要旨

● 開会

資料等説明(事務局より)

千代田区エリアマネジメント団体ガイドラインについて

- 資料1、2、3に基づき、第1回千代田区エリアマネジメント団体ガイドライン検討会における委員指摘対応表、千代田区エリアマネジメント団体ガイドラインの概要、千代田区エリアマネジメント団体ガイドラインの骨子(案)について説明された。

意見概要(千代田区エリアマネジメント団体ガイドラインについて)

- 最初の活動のきっかけは、JRの上野東京ラインの工事の時期で、神田駅の周辺の5つの商店会、商店街が一緒になり、毎月1回のミーティングを始めた。路線は出来たがコロナ禍もあり企業との連携が難しくなったため、活動を積極的に行えず、協議会メンバーも少しずつ熱が薄れているため、困っている。エリアマネジメントは、我々地元の人間だけではなく、企業の皆さん、あるいは学生さんたちにも考えてもらい、何が問題であるかをみんなで考え、盛り上げていくことが大事である。最近、企業や学校なども積極的にまちに協力をしようという考え方が芽生えてきており、様々なことで協力いただけるチャンスは多いようである。
- エリマネ団体ガイドラインが何なのかというのが、まだわかりづらい。連携の考え方やプロセス、団体ないしは連携に特化した構成にした方がいいのではないかと。また、千代田区ではエリアマネジメント活動推進ガイドラインを既に作成しているので、エリマネ活動のことまでここに記載するとわからなくなる。あくまでもエリマネ活動や地域活動を展開していくにあたって、こういうプロセス、こういう考え方でいくと活動が進みます、という形でこのガイドラインを作った方がいいのではないかと。タイトルもガイドラインではなく、エリマネの進め方とか始め方みたいなものと、町会の皆さんなど課題を持っている人たちが見たとき、こういうふうにすれば連携でき、進めていけるということがわかるものになるのではないかと。
- エリマネの進め方の中で、住民と企業と学校、大学などを繋ぐことが望ましく、さらなる活動の展開の可能性があると最初に言ってもいいのではないかと。主体など、必要な要素は書かれているが、どうすればいいのかわからない。企業の皆さんの思いと、住民の皆さんの思いを繋げていきましょう、そうするといろんな活動が始まるのではないかとプロセスを考えていけると良い。ただし、住宅が非常に多いところもあるので、そこはどうするかは悩ましいところではある。区内のかなりのエリアは住宅もあれば商業もあり、さらに事業者もいるという複合型の市街地であり、1つの形として、企業と町会が繋がっていくところから始めようみたいなことを言っても良いのではないかと。
- 第1章の「エリアマネジメント団体とは…？」で、地域に根付いた町会、商店街、都市再生推進法人等の地域で活動する団体と書いてあり、町会である自分たちもエリアマネジメント団体ということだが、正直そういう認識や、そこまで考えたことはなかった。とはいえ、地域の再開発で新しく高層マンションや

＜確定稿＞

オフィスビルができ、町会自体が変わりつつあるのも現実であり、新しい人たちや企業の方々、会社も学校もある。エリアマネジメントとはこういうものだということを周知してもらうことで、エリアの魅力や団体組成の気運を高めたり、地域を盛り上げられるのではないかと。地域に根ざした町会や商店街など単体で出来れば、それはそれでいいが、お互いの活動を補い、それを超えた一つの塊みたいなものができたら良いのではないかと。

- このガイドラインの大きなメッセージとして、チームを作ることが大事であるというのが最初にあった方がいいのではないかと。その後、いくつか例を示し、これを見た別の町会が、自分たちはこういう壁を抱えているから、企業とコミュニケーションを取ってみようとなるかもしれない。逆に、企業は企業としてこんなことやりたいと思っていれば、町会と何か話をするようになるのではないかと。
- 内容として、具体的に何をどうやったらそういうチーム作りができるのか、どういふステップを踏めばチーム作りができるのかというのを、もう少し分厚く書くと良いのではないかと。
- 千代田区の町会や商店街はまちの成り立ちとともにできて、それぞれ非常に歴史があるが、課題として、担い手の不足などがある。エリアマネジメント活動推進ガイドラインに沿ってイベント等を実施するにあたり、どうしたら円滑にいくのかというのが第1ステージで、それは地域コミュニティのカンフル剤だと思っている。今回エリアマネジメント団体のガイドラインは、カンフル剤ではなく、町会や商店街を含めた体質改善をどうするかである。元々の繋がりを強め、違うネットワークと橋渡しをしていくことも大事である中で、連携の取組としてどうしていくのか、どうチームを作っていくのかということについてこのガイドラインが、しっかりとした補助線になる必要がある。連携の取組みとして、このガイドラインが補助線となる必要があるが、補助線を引いただけでは難しいため、町会と融合していく団体に対して区としてどう支援していくのかを考えなければならない。町会自体もエリアマネジメントであるが、団体ガイドラインができた後に持続可能にしていくための方法を区として考えていかなければならない。
- 団体を作って集まりましょうというよりも、皆さんが出会って理解し合える場、繋ぐ場が必要ではないかと。また、地域でいろんなことをされている方々の活動が見えにくいことがある。エリアの促進といった意味では、情報を集約することも必要ではないかと。
- 区の公募で採択され、その予算でウォーカブル活動を準備しているが、今後、個人の集まりのような任意団体的なものがエリアマネをやるうと思った時に、区の支援は受けられるのか。プラットフォームの話があったが、予算だけではなく、情報や他と繋いでもらえる支援は任意団体や個人でも受けられるのか。また、区に新しい住民などにも後押しのようなものをしてもらえると、町会などと上手に繋がれるのではないかと。
- 理想としては話し合いながら連携できればいいが、そういう場がそもそも作れないときや難しいとき、場の提供や人材など、マッチングの素みたいなのをこのガイドラインを通じて示せると良いのではないかと。また、それぞれのチームで構成されている人や団体が、どういう資源を持っているのか、どういう支援ができるのか（町会なら場所、企業ならアイデアなど）を整理するといいいのではないかと。
- 今回、食のイベントを地域の団体と予定している。町会は区民館を借りることができるので、活動する側は無料で場所を提供してもらえ、町会も地域に町会の活動を知ってもらえるなど、地域のにぎわいに協力できる。このように、町会などと連携するメリットを上手く広められたら良いのではないかと。学校であれば、大学のボランティアセンターを通して児童文化研究会のような学生がお手伝いできるとか、地域のこの団体だったら、こんなことやれるなど、団体によってやっている内容や人材に特化しているので、それを組み合わせることによって、1つのイベントができるという情報をうまく盛り込めたら良いと思う。

<確定稿>

- 土地利用と地域特性は重要なキーワードではないか。地域特性が類似のエリアや隣接や近接しているエリアの団体とは、手続き等でひとかたまりになれば、連携する必然性や活動の内容・目的が類似しているため、苦労話などの情報連携も含め、共通のテーマがたくさんある。
- 各地域で、昼夜間、平日・休日にいるステークホルダーが違うため、一般解のエリマネ団体が何かということよりも、千代田区らしい土地利用と地域特性に合わせた類型としてはどうか。町会や商店街などは基本的にそこで居住しているとか、生業をされている方を中心に構成されていると思うが、昼夜間人口差が大きいことが特徴的である当区では、そうでないステークホルダーの人たちにどうやって参加してもらうかといった巻き込み方をも考えていく必要があるのではないか。その際、“防災”は時間軸によってかわるステークホルダーも異なり共通の検討テーマになり得ると思料する。
- 公共空間は排他性がなく、多様な活動や交流を受け入れる性質を持った空間である。そこでの活動をどうして欲しいかをみんなで考えて受け入れていくというきっかけから、まちの活動の合意形成ができるのではないか。従前の公共空間でやってきたお祭りなどの経験から応用もできるのではないか。道路などの公共空間を活用できれば、民間空地の活用の仕方、役割も決まってくる。漫然と何かに着手するというより、公共空間の活用や、どうやって地域のために活動していくか、どういう場所にするかというところにフィーチャーし、テーマとして考えた方が意識しやすく、また人が集まりやすく、始めるきっかけになるのではないか。そのプロセスとして、まず連絡会みたいなものがあると発展しやすいのではないか。
- エリマネ団体としての活動の一環で本日、帰宅困難者対策の会員企業と一緒に、まさに帰宅困難者対応について勉強会を開催した。また先日は、日本大学と一緒に、商店街を組織してない店舗だけがある通りで社会実験として歩行者天国化を行った。そういう意味では、連携を図りつつあるが、地域内において何かやりたいと言っている個人や企業を拾えているわけではないため、その人達が何か情報を取得できるような環境作りを区に支援していただけると良いのではないか。
- 複合市街地ではない住宅地で、エリマネがなぜ必要なのがまだ腑に落ちていない。夏休みに子供たちとのラジオ体操や小学校を中心とした避難所運営協議会、お祭りなど、地域の方々と連携はしている。
- 防災ということでは、ここ 20 年間、まちづくりと防災の間に深い隔たりがあると感じている。そこは区に調整してもらえると良い。
- 神田駅東口エリアで、神田阿波おどりを複数の商店会が町会等と連携して行った。町会には、商店会にはないノウハウがあり、イベントのやり方を知っている。今回のイベントでは、補助金を受けられなかったため資金的には企業の寄付があり、区の各課の支援を受けて驚くほど短期間で上手くできた。今話を聞いてエリマネができていと感じた。一方で区の担当窓口、警察等に個別にアポイントを取り、調整する必要があったので、まとめて話し合える場があると、もっとスムーズに出来たのではないかと感じた。
- マッチングするにしても、出張所などのエリア単位ではなく、区がイベントや活動を行っている人の連絡先などの情報を一つに集約しておくことが重要ではないか。
- 我々の町会は、役員だけで計画し活動しており、何かをやるようになったことがあまりない。これを解決する良い方法があれば、教えていただきたい。
- このガイドラインは、千代田区エリマネ活動推進ガイドラインを見て、我々もエリマネ活動をやりたいという人たちをフォローするようなものとして、まとめていきたい。
- タイトルは再考した方が良いと感じた。今日の話を含め、みなさんの活動の状況や、どうやってネットワー

<確定稿>

キングしてきたかということが書かれると、他のガイドラインとは差別化でき、良いものが出るのではないか。

- エリマネの進め方とした場合、何か企画を立てるとき、何か周りと繋がるとき、資金が必要なときなどプロセスに沿って何が必要なのかということを書いた方が良い。
- マネジメントとは、結局は経営で、経営は何かというと、資源をいかに効率的に使って物事を進めていくかということである。そういう意味では、エリアは地域の資源で、それは人であったり、空間や場所でもあるが、そういう資源やノウハウを結集して取組を進めていくことをエリアマネジメントと定義づけをしても良いのではないか。
- 資料3のp19にエリアマネジメントの「型」があるが、まだしっくりこない。どういときにどういう道筋でどういことを考えれば良いかがわかると良い。エリアマネジメントなので、エリア（場所）がどこかというのを考えるのがそもそも大事な話であり、この場所にいろんな人たちが重なっているときに、どう考えていくかを考えるのが基本ではないか。どういう人たちを対象にして、どういう形で関わってやっていくかという道筋みたいなものがうまく示せると、具体的に役に立つものになるのではないか。

その他

- 参考1に基づき、次回の検討会スケジュールが説明された。

閉会